

びわ南小学校からの報告

「みずすまし」水生生物調査結果表

調 査 場 所 名 (No.)			難波橋下流100m付近 No.1				高山キャンプ場 No.2				No.3			
月 日 時 刻			6月10日 13時45分				6月24日 14時00分							
天 気			晴れ				晴れ							
水 温 (°C)			25.0 °C				18.0 °C							
気 温 (°C)			33.0 °C				27.0 °C							
川 幅 (m)			15.0 m				10.0 m							
河 川 名			姉川				草野川							
生 物 を 採 取 し た 場 所			川の左岸				全面							
水 深 (cm)			25.0 cm				20.0 cm							
流 速 (cm / s)			30.0 cm/s				60.0 cm/s							
水 の よ う す			指標生物											
I き れ い	1	カワゲラ類					○							
	2	ナカレトビケラ・ヤマトビケラ クロツツビケラ類	○											
	3	ヒラタゲロウ類	○				○							
	4	ブユ類												
	5	ヘビトンボ類					○							
	6	ガガンボ類					○							
	7	サワガニ	○				○							
I・II 共通	8	ウスムシ類					○							
	9	2以外のトビケラ類	○											
	10	3、14以外のカゲロウ類	●				●							
II 少しよごれている	11	ヒラタヘロムシ類												
	12	ジジミ類												
II・III 共通	13	カワニナ												
III よごれている	14	サホコカゲロウ												
	15	ヒル類												
	16	ミスムシ												
	17	モノアラガイ												
III・IV 共通	18	サカマキガイ												
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ												
	20	イトミミズ類												
	21	ハナアブ類												
水 質 判 定 表	水のようすの区分		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)	5	2			7	2						
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)	1	1			1	1						
	合 計 (1欄+2欄)		6	3			8	3						
	判定結果(合計が最も大きい区分)		I				I							

調査考察、活動内容等

(1) びわ南小学校水生生物調査隊について

本校の水生生物調査隊は、4年生全42員名で活動しています。1学期の総合的な学習の時間において、学区内の姉川（難波橋下流100m付近）と学区内を流れる姉川の上流である草野川を調査し、水環境についての学習を行いました。



(2) 調査結果について



① 姉川（難波橋下流 100m付近）

6月10日に運動場北側にある姉川（難波橋下流100m付近）に調査に出かけました。この日は、学年活動として保護者と一緒に川の生き物調べをしました。元びわ南小学校校長の八木先生と湖北野鳥センター専門員の植田先生に講師を依頼し、調査の前に水生生物を調査する目的や、生き物を上手につかまえるための網やざるの使い方などを教えていただきました。

右の写真の姉川（難波橋下流100m付近）は、川幅が15m水深30cmほどでした。気温33℃、水温25℃と水の中に入るには良い天候となり、多様な水生生物の発見が期待されましたが、講師の先生によると、例年に比べて採取できた水生生物は少なかったとのことでした。しかし、姉川の水質を調査するには十分な種類の水生生物を採取することができました。

採取した生き物は、その場でグループごとに種類分けしてトレイに分類しました。結果は、以下の通りでした。

○一番多く採れたのは、カゲロウ類。

○サワガニ、ヒラタカゲロウ類、ナガレトビケラ類、ヤマトビケラ類、クロツツトビケラ類など、きれいな水に生息している生き物が多くとれました。

○他にも、ヨシノボリ、ドンコ、カワムツ、シマドジョウなどの魚類や、ヌマエビ、スジエビ、ヤゴ、アメンボなどの水生生物も採取することができました。



結果を分析すると、総合的に見て、姉川（難波橋下流 100 m 付近）の水は、とてもきれいな水だということがわかりました。

【児童の感想から】

* 水生生物観察会では、カゲロウやサワガニなど、いろいろな生き物をつかまえました。中には、激しく動いたり、くねくね動いたりする生き物がいて、すごいと思いました。水生生物観察会のおかげで、生き物が好きになりました。

* 姉川で水生生物をつかまえて、観察したことが心に残っています。なぜかという、姉川へ行って生き物をつかまえるのは、初めてだったからです。初めて見る生き物もたくさんいて、いろいろなことを知ることができました。わたしは、水生生物は、水に流れていると思っていたけれど、土の中にいる生き物もたくさんいることを知ってびっくりしました。



②草野川上流（高山キャンプ場内）

6 月 24 日の「やまのこ学習」では、高山キャンプ場内の草野川上流の生き物調べを行いました。草野川は校区を流れる姉川の上流でもあります。川は、自然に囲まれていて、大きな石や砂利があり、少し深くなっているところや浅くて流れが速いところなど、さまざまでした。児童は、石をめくると、そこで多くの水生生物が簡単に見つけることができるので、びっくりしていました。

その後、グループごとに集めた水生生物を持って、キャンプ場にもどり、生き物集計シートと照らし合わせて分類しました。



ガガンボ	3 匹	カワゲラ類	25 匹
ナガレアブ	7 匹	ヒラタカゲロウ	9 匹
トビケラ類	0 匹	カゲロウ類	64 匹
ヘビトンボ	9 匹	サワガニ	13 匹
ナベブタムシ	8 匹	その他	41 匹
ヤゴ	10 匹	合計	189 匹

以上から、次のような結果がみえてきました。

カゲロウ類、カワゲラ類、ヘビトンボなどきれいな水にすむ生き物が多く採取できました。そのうち、最も多いカゲロウ類は 64 匹でした。

結果を分析すると、草野川上流は事前の学習で予想していた通り「きれいな水」の川であることがわかりました。また、姉川の水生生物観察会では見つけることができなかったウズムシなどの生き物を採取することができました。そのことから、児童は姉川と比較して採取できた生き物にちがいがあることを感じ取り、実際に川の水に触れて活動した体験から、同じ水質等級Ⅰであっても、姉川より草野川の方がきれいであると感じている児童が多く見られました。



(3) まとめ

○姉川での 1 回目の調査は、講師の八木先生と植田先生に専門的な立場から話をしていただいたことで、より一層有意義な活動ができました。水生生物調査は初めてという児童が多く、事前の学習では川にいる生き物で魚やカニなどに目を向ける児童が多い反面、水生昆虫に目を向ける児童はほとんどいませんでした。そのため、指標生物となる水生生物を調べることに興味を持って取り組む児童が多かったです。また、川の中にすむ水生生物の種類を調べることで、川がきれいかどうかに関心を示す児童の姿も見られました。そして、虫が苦手だという児童も意欲的に学習に取り組んでいたことから、水生生物観察会の良さを感じさせられました。

○「やまのこ学習」での水生生物調査では、姉川での調査経験が生き、児童も 1 回目より深く水生生物に対して思いを巡らせていました。水生生物をつかまえながらも、「この川の水はきれいな水質みたいだね。」と水のきれいさに目を向ける児童の姿が見られました。

○今年も、姉川（難波橋下流 100m）の調査や、「やまのこ学習」での草野川の調査を通して、姉川の上流と下流の周辺環境や生き物、水のきれいさなどを比較することができました。「姉川も草野川も一番多いのはカゲロウ類だった。」「姉川と比べて、川の流れも水質も違うみたい。」と、1 回目の学習と比較して考える姿があり、学習がたいへん深まったように思いました。